

国立白門会
創立十周年記念誌

はばたき



中央大学学員会国立支部

目 次

ご 挨拶

1	発 足	1
	(1) 準 備	1
	(2) 創 立 総 会	2
	(3) 支 部 昇 格	3
2	活 動	4
	(1) 諸 会 議	4
	① 役 員 会	4
	② 通 常 総 会	4
	(2) 部制導入による活性化	5
	① 各部の分掌事項	5
	② 各部の活動	6
	③ 各部の部員	12
	(3) 中央大学学会本部及び三多摩地区連絡協議会関係	13
	① 中央大学創立百周年記念式典	13
	② 中央大学学会幹事会等	13
	③ 中央大学学会三多摩地区連絡協議会	14
3	会員の叙勲及び表彰	16
4	トピックス	16
5	備品一覧	17
6	国立今昔	18



秋の甲府散策



奥多摩ハイク



市民祭



さくらフェスティバル



警視庁見学



中央大学創立百周年記念講演会



囲碁大会



納涼会



ご挨拶

国立白門会会長 村田 亘

国立白門会は昭和53年、中央大学が駿河台から多摩キャンパスに移転した年の5月21日に創立し、10年を経過しました。

創立当初から携わってきた私にとっては、長い歳月でもあるし、また昨日のようにも感じられます。

国立白門会は創立と同時に、中央大学学生会三多摩支部国立分会になりましたが、昭和57年には独立して支部に昇格し、今日に到っております。

国立白門会は会費で運営し、多彩な行事を行い、学员相互の親睦を深め、輪を拡げ、中央大学の興隆と地域社会の発展に寄与しております。

国立白門会は、全国83地域支部の中でも最も活動している支部の一つに数えられていますが、ここに到るまでの役員諸氏の献身的努力は勿論ですが、陰の功労者をも忘れることはできません。

国立白門会創立準備について、弁護士・故池田由太郎先生の激励と物心両面の御協力と、学员会本部の好意で借用した20センチ位の厚みのある学员名簿から、国立市が北多摩郡谷保村であった時代からの学员約500名を抽出し、更に谷保村……を現在の国立市……に更正し、その中から現存者約280名に国立白門会結成準備会の案内状を出してくれたのは、国立市役所勤務五十嵐力氏（学员）であります。

国立白門会には未だ為すべきことは多々あると思いますが、「ローマは一日にしてならず」で、国立白門会の現状と、ここに至った経緯と役員をつとめられた方々の労苦とを、次の時代を担う学员の参考に供し、国立白門会が益々発展することを念願し、「国立白門会創立十周年記念誌」を編纂することに致しました。

1 発 足

(1) 準 備

昭和53年2月、国立市内在住の村田亘氏は、国立駅前ブランコ通りにあるパブ「レッドトップ」で、同じ学員の関喜一氏外数人と偶然の出会いをしたが、それが国立白門会発足の端緒となったのである。発足の際の苦労話を国立白門会ニュース第2号に村田会長が「国立白門会ひとりある記」として寄稿している。

国立白門会ひとりある記

会長 村 田 亘

青春の6年間、私を育ててくれた中央大学が駿河台から多摩に移り、無量の淋しさを覚えるが、世界の政治、経済、文化が大きく変り、これに対応する大学の使命を全うするため、他の大学に先駆けて世界に誇るキャンパスを建設された戸田学長ほかの諸先生の決断に敬意を表すると共に、できる限りの協力をしなければならないことを痛感する。

中央大学のキャンパスが多摩に移ったのと時を合わせたように国立白門会が誕生してはや3年になる。

母校が近くに来たからではないと思うが、国立市に300人の会員がいるのには驚いた。

町のどこを歩いても会員がいるようで、国立が狭くなったように感じる。

国立駅前には軒並みに会員の家がある。富士見台の第一団地バス停の傍にも会員の店が何軒もある。国立市役所には20数名の会員がいる。母校が近くにあって、これだけ多くの会員がいると「わが町くにたち」という気がしてならない。

思えば昭和53年2月の或る日、関喜一君に「先輩、国立には会員が大分いるようだから委員会をつくってくれないか」とおだてられ、30人か50人位の会員はいるだろうと思って駿河台の委員会本部を訪ねたのが事の始まり。

厚さ20センチほどある名簿に卒業生の住所、氏名がぎっしり載っており、住所が北多摩郡谷保村となっている人が、かなりいた。

課長補佐大月良一氏の好意で約500名の卒業生を拾い出し、更に国立市役所白門会の協力で、谷保村……番地が今の国立市でどうなっているかということも判り、調査の結果、280名の卒業生が現存していることが確認された。

かくして国立白門会の創立総会を開催したのが昭和53年5月21日である。

以来、3回の総会を経て母校の近況と国立白門会の動静を載せたニュースを発行するなど、石の上にも3年というが、漸く組織としてひとりあるきできるところに来た。皆様の御協力の程を。

(2) 創立総会

いよいよ準備が整い、昭和53年5月12日に結成準備会代表の村田亘氏から、国立市内に居住または勤務される学員宛、次のような中央大学学員会三多摩支部国立分会創立総会の案内状が発送された。

御 案 内

拝啓、新緑の候、学員各位にはいよいよ御清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび母校は駿河台から多摩地区に移転し、私達三多摩在住の学員と極めて緊密な関係を持つことになりました。

日本は固より、世界で類を見ないといわれる恵まれた教育環境と充実した施設の中で、遠大な理想を実現しようとする母校の土台となるのは学員会であります。

国立市には約300人の学員がおります。

ついては、国立市に住み或は勤務する学員が連繋を密にして親睦を深め、母校の発展に寄与するため中央大学学員会三多摩支部国立分会を結成したいと思っておりますので、学員各位にはお繰合わせの上、御出席下さるよう御案内申し上げます。

敬 具

追 伸 国立市には名誉教授中西旭先生、弁護士池田由太郎先生などの諸先輩や多くの教職員の方々が住んでおられますので、中央大学当局及び学員会の外、学員会三多摩支部長外副支部長、理事長及び幹事長各位と共に御案内申し上げます。

日 時 昭和53年5月21日（日）午後2時

場 所 国立会館2階（国立駅前西友ストア向い）

昭和53年5月12日

国立市富士見台1-1-201

中央大学学員会三多摩支部国立分会

結成準備会代表 村 田 亘

T E L (74) 9101・(75) 2020

創立総会は、昭和53年5月21日、午後2時から国立会館において50名程度の学員が参加して開催され、無事に中央大学学員会三多摩支部国立分会（通称国立白門会）が発足した。

創立総会には、学員会本部から阿部輝男事務局次長（当時）、三多摩支部長関孝氏、小金井・国分寺分会長保坂正文氏が来賓として出席くださり、祝辞を述べられた。

会長に村田亘氏を選出し、中西旭、池田由太郎、井上謙次郎、市橋千鶴子の各氏を顧問に推せんした。

事業計画として、名簿の作成、規約の制定等、組織の確立を図ることを決定した。

(3) 支部昇格

国立白門会の発足当時から懸案であった支部昇格の準備が整った。

108名の終身会員(中大学員会費完納者)が国立市内に居住していることを確認したうえで、昭和57年3月30日に規約、役員名簿、会員名簿、三多摩支部長の同意書等の書類を添付して、村田会長、井上副会長、福谷幹事長、二宮会計の4人が中央大学員会本部を訪問して総務課長に支部昇格申請書を提出した。

申請から2カ月後に開かれた幹事会で、国立支部昇格が承認され、昭和57年5月28日付で中央大学員会谷村唯一郎会長から中央大学員会国立支部長村田亘氏宛に別掲のとおり通知があった。

谷村唯一郎会長は惜しくもその翌日5月29日、脳いっ血のため、95歳で逝去されたが、国立白門会の支部設置承認が最後のお仕事となったのは意義深い。

同年7月4日に開催された国立白門会総会で支部昇格承認の報告を行い、それに伴う規約の改正を行った。

役員として、支部長、副支部長、幹事長、副幹事長、会計、会計監査の他に常任理事、理事を置き、新たな出発をしたのである。

なお、昭和58年度の員会総会の席上、堂野員会会長から村田支部長に対し支部旗が授与された。

支部昇格に当たって、関八王子支部長、保坂三多摩支部長、五十嵐立川支部長、池田由太郎、谷清両顧問からそれぞれご祝辞を頂いたことは感激であった。

昭和57年5月28日

中央大学員会国立支部
支部長 村田 亘殿

中央大学員会
会長 谷村 唯一郎

中央大学員会国立支部設置承認通知

昭和57年4月11日付をもって申請のありました中央大学員会国立支部設置につきましては、5月28日の幹事会において全会一致を以って承認することに決定いたしましたので通知申し上げます。

今後、貴支部の益々活発なご活躍を期待しておりますとともに、員会会の発展、母校の隆昌にご貢献下さいますようお願い申し上げます。

以上

2 活 動

(1) 諸 会 議

① 役 員 会

会の行事等は、役員会で計画されるが、この10年間、昭和63年3月までに83回の役員会が開かれた。発足当初は、会長、副会長、幹事長、会計、会計監査の他に6～7名の幹事で役員会を構成した。

支部昇格を機にこの役員会も充実し、支部長、副支部長、幹事長、会計、会計監査の他に常任理事、理事をおくことになり、人数も25名に増員された。

役員任期は2年であるが、設立当初からの役員は留任し(役職は交代した方もいる)、事業の拡大に伴い増員してきたのである。

役員会を開く場所もないため、昭和61年10月から喫茶店ロージナを集会場に定着させるまで、次のように転々としたが1回の役員会には10名程度の役員が集い、和気あいあいのうちに進行していったことは特筆される。

白十字6回、せきや酒店事務所10回、久保田商事事務所7回、Villa 6回、公民館1回、国立会館1回、佐藤幹事(当時事業部長)宅1回、井上副会長宅1回、バーゼル8回、ロマン(折原久美子会員の父君経営の喫茶店)27回

ちなみに関理事の事務所では奥様がお茶の接待をしてくださり、ロマンではテーブルを寄せ集めて俄か会議場をつくり、折原会員のお母様に大変お世話になったことが印象に残る。

年次別役員会の開催状況は次のとおり。

昭和53年6回、昭和54年8回、昭和55年10回、昭和56年8回、昭和59年6回、昭和60年7回、昭和61年9回、昭和62年10回、昭和63年(3月まで)4回

発足当初の役員(敬称略)

会 長	村田 亘
副 会 長	井上定男、五十嵐 力
幹 事 長	福谷 実、(副)関 喜一
会 計	南川義昭
会計監査	佐藤勝博、能味寿哉
幹 事	山崎 武、久保田利雄、田口正明、西野堅吉、笠原勝雄、石川武夫、山下一夫

② 通 常 総 会

通常総会は毎年1回開催されるが、その開催は次のとおりである。

総会においては、規約の改正、前年度の事業報告、会計決算報告、会計監査報告、当年度の

事業計画、予算案を審議した後、懇親会を開き、会員の親睦を図っている。

ちなみに総会には学会会本部から阿部輝男事務局長が毎年ご出席賜り、昭和57年度には山梨稔副会長が出席して下さった。大学からは昭和58年度、60年度に桃井直造常任理事が出席して下さった。

また、三多摩支部長をはじめ三多摩地区の各支部長も毎年出席頂いている。

昭和53年5月21日	PM 2:00~	国立会館
" 54年4月20日	PM 7:00~	"
" 55年4月27日	PM 4:00~	国立商協ビル
" 56年4月26日	PM 4:00~	"
" 57年7月4日	PM 4:00~	"
" 58年5月15日	PM 5:45~	"
" 59年5月13日	PM 4:00~	"
" 60年5月12日	PM 4:00~	国立市商工会館
" 61年4月20日	PM 4:00~	国立商協ビル
" 62年6月14日	PM 4:00~	"

(2) 部制導入による活性化

会の運営を活発に行うため、役員がそれぞれ分担して企画に当たることとして、昭和55年度から4部（広報部、事業部、厚生部、組織部）制を導入した。

昭和60年4月1日付で部組織規定を制定してその基盤を確立した。

① 各部の分掌事項

広 報 部

会報等発行に関すること。

会報等に掲載する広告の収集に関すること。

その他広報に関すること。

事 業 部

本会主催で行う会員ならびに会員以外の市民を対象とする事業の計画・運営に関すること。

他団体等が実施する事業・行事等の協力に関すること。

会員の研修に関すること。

その他の事業に関すること。

厚 生 部

本会が主催する会員を対象とした福利厚生、親睦等に関する行事の計画・運営に関すること。

その他厚生に関すること。

組 織 部

本会員の消息の把握に関すること。

会員名簿の作成に関すること。

会員の増強及び組織強化に関すること。

本会規約・規定等に関すること。

その他組織に関すること。

② 各部の活動

広 報 部

年2回(4月・9月)会員とのコミュニケーションを図るため、会報(国立白門会ニュース)を発行しているが、その編集は一部の経験者を除いて素人があつたため、少なからず苦勞した。

第1～2号は井上副会長が、第3～5号は福谷幹事長と二宮幹事が編集したが、第6号から第16号(現在)までは広報部が担当している。

郷里の会、趣味の会等で既にミニコミ紙の編集を手がけていた能味寿哉氏が部長として才能を発揮されており、玉利武人、笠原勝雄、新倉良平各氏(当初の部員)に加えて昭和60年からは金子泰久、平本聖子の両氏が参加して充実した内容の会報を会員に届けている。

しかし、4ページの会報ではあるがその印刷費が相当に負担になるので、体裁その他をレベルアップしたままで廉価でできるよう苦心している。

また、一地方小都市にある支部として継続的に会報を発行しているユニークさを認められ、学会本部から「學員時報」に原稿投稿の要請があり、昭和63年2月25日発行の「學員時報」の「支部会報をつくろう」に寄稿した。

事 業 部

a 市民祭に参加

国立市では、市の商業の発展と市民の交流を図るために毎年11月3～5日の3日間、大学通りで天下市、市民祭を実施しているが、国立白門会が地域社会に融合することを願って、法律、税務、不動産の無料相談とバザーを行って市民祭の仲間入りをしている。

昭和55年のバザーでは、第1回目の試みとして、当時の佐藤勝博事業部長の肝入りで秋田県合川町(佐藤部長の出身地)の物産販売を行った。

物産は、リンゴ、ヤツメウナギ、山芋、米、カボチャ、キリタンポ、民芸品、パンツ、シャツ等種類も豊富であったが、会員の本職はだしの売り子ぶりにまたたく間に売り尽くされてしまった。

その後も毎年、市民祭に参加しているが、法律、税務、不動産の無料相談は、學員の特技を生かした得意の催しで市民に広く親しまれ、高い評価を得ている。弁護士の故池田由太郎、市

橋千鶴子、石川正明、村上寿夫、溝口敬人の各先生、税理士の宮沢行雄、宍戸勇之、高橋雅幸の各先生また、不動産コンサルタントの久保田利雄理事に深甚な感謝の意を表したい。

会員持ち寄りの品物や久保田理事から根こんぶの提供を得て行っているバザーでは益金の一部を、社会福祉事業の一助として国立市社会福祉協議会に寄付している。

b さくらフェスティバルに参加

国立市では秋の天下市と同様、市のお祭りとして、春に「さくらフェスティバル」を催しているが、国立白門会も久保田理事、関理事の協力を得て会の運営資金造成のため、昭和62年から参加し、バザーを行っている。なお、丸本大幹事長、風間俊範副幹事長が市民祭、さくらフェスティバルとも実行委員として協力している。

c あれこれ考える会

会の地域社会の発展に寄与する事業の一環として「くにたち」をより住みやすく、より文化的な街にしたいという願いをこめて、全く自由な観点で色々な角度から「くにたち」を語ってみよう、ということで昭和59年11月17日に公民館において、第1回の「あれこれ考える会」を開催し、国立市卯月企画広報部長を講師にお願いして市の行政について種々説明を頂いた。第2回以降は、その都度、子どもの教育、駅前の自転車の放置、下水道等の諸問題が熱っぽく語られた。その開催の状況は次のとおり。

第2回 昭和60年11月13日 ダイヤパレス集会場

” 3 ” ” 61年6月15日 ”

” 4 ” ” 61年11月9日 ”

” 5 ” ” 62年11月7日 ”

d 学術講演会

㊤ 国連協会主催

日本国連協会東京都国立支部で行っている講演会に故池田由太郎顧問、佐藤勝博理事の要請により国立白門会が協賛することになった。

第1回は昭和55年9月28日午後1時30分から国立商工振興会館ホールで次の講演会が行われた。

演題「中東とイスラム」 齋藤精平先生

「ソ連のアフガニスタン軍事侵略」 小野打寛先生

第2回は、昭和56年11月1日午後1時30分から小百合幼稚園で次の講演会が行われた。

演題「変貌する中国と国連」 NHK解説委員 豊原兼一先生

最近3カ年の講演会は次のとおり。

昭和60年11月17日

演題「国連と開発」 室靖先生

昭和61年6月15日

演題「世界における日本と中国」 豊原兼一先生

昭和61年11月9日

演題「国連体制と国際開発」 室靖先生

昭和62年5月31日

演題「日本人の国際感覚」 U・Dカーン・ユースフザイ博士

昭和62年11月8日

演題「中近東と国連」 井上竜昇先生

⑥ 中央大学主催

中央大学では国立市を会場として2回に亘って講演会を開催した。

i 昭和58年10月30日 午後1時30分から国立市中央公民館において公開講座を開催した。

法学部教授犯罪学博士藤本哲也先生の「少年非行と家庭」同じく法学部教授山本徳栄先生の「生命の健康と福祉と行政」と題する講演は多くの参会者に感銘を与えた。

ii 昭和60年5月25日 午後3時から国立市商工会館において中央大学創立百周年記念講演会を開催した。

理工学部助教授鹿島茂先生の「暮しから見た都市と交通」、直木賞作家の志茂田景樹先生の「真実の青春」と題する講演を拝聴した。

志茂田先生は地元国立高校の出身で楽しかった高校生活を振り返りながらのユーモアあふれるお話には笑いが絶えなかった。

なお、この2つの講演会は、中央大学が主催し、国立市、国立市教育委員会の後援、市内の多くの関係団体が協賛して開催されたもので成功裡に終了できたことはご同慶にたえない。

⑦ 南甲倶楽部主催

南甲倶楽部では、中央大学及び中央大学学会との共催で文化講演会を開催しているが、次の講演会に国立白門会からも4～5人の会員が聴講した。

i 昭和60年10月3日 午後5時30分、日本工業倶楽部において

演題「日本経済の現状と将来の展望」 講師 大蔵大臣 竹下 登氏

ii 昭和61年10月27日 午後5時30分、日本工業倶楽部において

演題「国際経済と金融情勢」 講師 大蔵省顧問 大場智満氏

厚生部

厚生部は、会員の福利厚生、親睦を図るため、種々の行事を計画、実施してきた。

a 旅行会

旅行会は家族同伴で実施し、会員の自家用車を利用して頂いたりしたが、奥様、お子さん、お孫さん等、沢山の参加を得て毎年楽しいひとときを過ごすことができた。

⑧ 春の旅行

昭和58年6月4日 サントリー武蔵野ブルワリー

昭和59年6月2日 警視庁（後述）

昭和60年6月2日 秋川溪谷、奥多摩湖

昭和61年 5月18日 秩父・長瀨

昭和62年 5月24日 青梅鉄道公園他（青梅・西多摩支部との交流）

⑥ 秋の旅

昭和55年10月11日 山梨県勝沼町・マンズワイン勝沼工場、恵林寺、ぶどう狩り

昭和56年10月25日 御岳（玉堂記念館、寒山寺）、沢井（小沢酒造）

昭和57年10月17日 はとバスにて筑波学園都市、筑波山等の探訪

昭和58年10月22日 甲府メルシャンワイン工場、ぶどう狩り

昭和59年10月 6日 甲府モンデワイン工場、ぶどう狩り、信玄館

昭和60年10月19日 甲府モンデワイン工場、ぶどう狩り、山梨県立美術館

この年は、山梨県支部との交歓会を行った。

昭和61年10月18日 甲府市、諏訪湖、諏訪神社、白樺湖

昭和62年10月17日 身延山

秋の旅は、比較的山梨方面が多いが日帰りで行ける手頃な観光地であること、ワイン工場の見学には関喜一理事のご尽力により懇切な説明が伺えること等によるものである。

b 新年会

会員相互の親睦を深める行事の一つとして新年会を実施している。新年会には、毎年2～3人來られる新人も含めて35人前後の参加があり、なごやかな雰囲気の中に初春の一夜を過ごし親睦を深めている。

参加者がそれぞれの持ち味を生かして長年培った芸を披露して頂くカラオケ大会もこの一夜の楽しみの一つである。

毎年、公私ともにお忙しい中を参加頂く谷清市長、中西旭、市橋千鶴子、酒井博各顧問の先生には、ただただ敬服の念で一ばいである。

昭和56年 1月24日	}	信濃路
昭和57年 1月23日		
昭和58年 1月22日		
昭和59年 1月19日		
昭和60年 1月26日		
昭和61年 1月25日		
昭和62年 1月23日		
昭和63年 1月23日		

c 見学会

① 中央大学多摩キャンパス

i 第1回

昭和54年10月 6日 14:30～17:30

会員の奥様1名とお子さん3名を含む17名は、会員の乗用車5台に分乗し、はげしい雨の

中、母校の見学会を行った。

南川義昭会員（中央大学経済学部事務室）の案内のもと、普段では見られない図書館や電算室を見学した。また、中央大学広報部長のご挨拶を頂き校舎内の見学もできたことは感激であった。

ii 第2回

昭和58年3月19日 13:00~16:40

会員の奥様3名を含む13名は、会員の乗用車4台で快晴に恵まれた1日、母校を訪ねた。

この日もおなじみの南川会員の案内で、視聴覚教室、図書館、学生食堂、生協ストア、大講堂（100周年記念式典の行われたところ—9号館）、第1体育館、各運動部、文化部の部室等の見学には終始感嘆の声が聞かれた。

また中央大学広報課長のご懇切なご挨拶を頂いた。

㊦ 警視庁

昭和59年6月2日 10:00~12:00

警察官のOBでもある山崎武厚生部長の案内で普段は訪問することも滅多にない創設以来100年を迎えた警視庁の見学会を実施した。

会員の奥様も含む16名は、午前10時に桜田門前に集合し、17階建の白亜の殿堂である警視庁の正面玄関から入り、広報課の婦人警官に案内され、「警視庁参考館」「警視庁通信司令室」「警視庁交通情報センター」を見学した。

それぞれの見学場所では非常に珍しい陳列品やテレビ等で見なれた交通渋滞のパネルの仕組みに驚嘆した。

婦人警官の丁寧な説明に感謝しつつ12:00に警視庁を辞した。

d 納涼会

昭和59年7月21日 18:00から市橋千鶴子顧問の表彰祝賀会を料亭一水園（風間副幹事長の勤務先）において催した。その後、この会合は、「納涼会」として定例的に毎年場所も同じ一水園で催されることとなった。

市橋顧問は、弁護士の激務のかたわら、中央大学の評議員、学員会幹事、白門婦人会支部長として母校や学員会の要職につかれ、精力的に活躍しておられてわが国立白門会の誇りでもあるが、昭和59年5月18日の学員総会において学員会の活動に多大の寄与をされたとして表彰を受けられたのである。

昭和60年7月13日

（村田会長の全快祝いを兼ねて）

昭和61年7月19日

昭和62年7月18日

e 趣味の会

㊦ 囲碁

名簿作成の際調査した各会員の趣味の中で比較的多かった囲碁の愛好家が集って第1回目の囲碁大会が昭和58年6月5日の日曜日、14:30~19:00、せきやビルB1Fの事務所を会場として開催された。

腕自慢の10名が参加してトーナメント形式でお手合わせをした結果、中島順敬初段と村田亘2段の決戦となり、めでたく村田2段が優勝された。

この会も定例的に次のように開かれたが、村田会長からは優勝カップの寄贈もあった。

第2回 昭和59年1月22日 信濃路 優勝 久保田利雄 (敬称略)

第3回 昭和60年11月24日 ダイアパレス集会場 優勝 荒木繁幸

第4回 昭和61年11月16日 ダイアパレス集会場 優勝 久保田利雄

② ゴルフ

囲碁と同じく昭和62年9月3日、女性3名を含む12名のゴルフ愛好家が高橋雅幸理事のお世話で多摩カントリークラブに集い、第1回の国立白門会ゴルフコンペを開催した。3組に分かれ、アウトコースからインコースへ回り、キャリア30年のベテランから、グリーンは初めてというビギナーまで仕事を忘れての開放感と同門であるよしみから楽しくプレイを行い、終了後の懇親パーティーではなごやかな語らいが続いた。

上位の入賞者は次のとおり (敬称略)

1位 高橋雅幸

2位 中島順敬

3位 皆川友彦、伊藤陽司

第2回は、11月12日、神奈川カントリークラブで行われた。優勝 中島順敬

第3回は、昭和63年4月24日、16名の参加を得て、青梅ゴルフクラブで行われた。

優勝 河野道有

このゴルフコンペも囲碁同様、長く続けられることと思われる。

なお、村田会長から国立白門会長杯が寄贈された。

組 織 部

a 名簿の作成 (名簿は3年に1回発行の予定)

昭和53年12月に初版の名簿を作成し、会員全員に送付した。

昭和54年8月に勤務先、趣味を加え、更に加除訂正して第2版の名簿を作成した。

昭和61年に第3版の名簿を作成して現在にいたっている。

b 連絡網

会員の方達と緊密な連絡をとりあって、より充実した活動を継続的に行うために昭和56年から次の各地区毎に連絡網をつくり、その地区に居住する役員が連絡員となった。

連絡員は、会員に直接お会いして「国立白門会ニュース」を配付したり、年会費を頂いたりしながら近況をお話することによってコミュニケーションを図ることに努めている。

<昭和56年> (敬称略)

北地区 能味寿哉
西地区 二宮 巍、久保田利雄
中地区 井上定男、山村鶴音
東地区 山崎 武、福谷 実
富士見地区 村田 亘、丸本 大
谷保地区 玉利武人
市役所 五十嵐 力

<昭和58年>

東1丁目 福谷 実
東2丁目 山崎 武
東3丁目 関 喜一
東4丁目 北沢寿恵子
中1丁目 井上正博
中2丁目 山村鶴音、井上定男
中3丁目 風間俊範
西1丁目 南川義昭
西2丁目 久保田利雄、風間俊範
西3丁目 二宮 巍
北1、2、3丁目 能味寿哉
富士見台1丁目 新倉良平
富士見台2丁目 小島泰義
富士見台3丁目 丸本 大
谷保・青柳・石田 堀田 勲、坂本靖男、小島泰義
市役所 小島泰義

c 準会員制度の導入

国立白門会は、国立市内に居住し、または、勤務している学员をもって構成されているが、その両方ともに該当しなくても国立市に何らかのゆかりのある学员（例えば国立市内の高校の出身者や国立市内にご両親が住んでおられる等）を昭和61年度から準会員として遇することとした。

準会員 志茂田景樹氏、溝口敬人氏

③ 各部の部員（昭和63年6月現在、敬称略）

広 報 部

部長 能味寿哉

玉利武人、新倉良平、金子泰久、平本聖子

事業部

部長 山村鶴音

久保田利雄、皆川友彦、前田信幸

厚生部

部長 山崎 武

関 喜一、井上正博、小林 治、高橋雅幸

組織部

部長 小島泰義

小口卓也、伊藤陽司

(3) 中央大学学生会本部及び三多摩地区連絡協議会関係

① 中央大学創立百周年記念式典

昭和60年11月13日10:00から多摩校舎第9号館(大講堂)において各界からの来賓、OB、教職員、学生代表等が参列して盛大に式典が催された。国立白門会からも村田会長ほか2名が式典に参加した。

式典は、この日のために作曲された「管弦楽のためのファンファーレの祝典楽章」を小松一彦氏の指揮で中央大学音楽研究会管弦楽部が演奏し、雰囲気盛り上げ、挨拶、式辞、祝辞、表彰と進行した。

祝辞は、松永東文部大臣(鳩山政務次官代読)、石川日本私立大学連盟会長、堂野学生会会長、ルイ、ファヴォルー、エクママルセイユ法・経科学大学名誉学長から寄せられた。

式典終了後、体育館で開かれた祝賀パーティーには5,000名もの参会者が集まり、心ゆくまで懇談した。

国立白門会からも10余名が参加し、同じく参加された他支部の会員とも交流の輪が広がったことは喜ばしいことであった。

② 中央大学学生会幹事会等

中央大学学生会に運営上必要な事項を審議するために幹事会・支部長会が、また役員を選任、事業計画、事業報告、予算、決算の承認、会則の改正、規程の制定、改廃その他重要事項を審議するために協議会・学員総会がおかれているが、国立白門会からは市橋顧問と村田支部長が幹事(協議員も兼ねる)に、井上、福谷両副支部長が協議員に選任されている。

協議会等は、毎年5月に学員総会と同一期日に開かれている。

また、昭和62年度の学員総会においては、市橋顧問が協議会及び学員総会議長として名進行役を果たされ、出席学員から高く評価された。

③ 中央大学学員会三多摩地区連絡協議会

国立白門会が誕生する前、三多摩地区には既に三多摩支部（支部長—関孝八王子分会長）があり、八王子分会、立川分会、小金井・国分寺分会、調布分会、町田分会が所属していたが、昭和54年6月24日に八王子市小杉会館において、学員会本部より阿部輝男次長（当時）を迎えて中央大学学員会三多摩支部総会が開催された。

この年5月19日に八王子分会が支部に昇格したため、役員改選を行い、新支部長に保坂正文氏（小金井・国分寺分会長）を選任し、村田亘氏が新たに副支部長に選任された。

国立分会からは常任理事として五十嵐力、福谷実の両氏が、理事に井上定男、井上正博両氏が、幹事に田口正明氏、会計監査に久保田利雄氏がそれぞれ選任された。

その後、相次いで立川分会、国立分会、町田分会が独立して支部になり、日野市に日野支部、青梅市に青梅・西多摩支部が新たに誕生したため、三多摩地区の連絡を密にするため三多摩地区連絡協議会が設立された。

三多摩地区連絡協議会は初代会長に関孝氏（八王子支部長）を、副会長に各支部長を選任し、事務局を八王子支部内におき、八王子支部の住友忠之氏を事務局長に選任した。

昭和60年10月26日、八王子駅ビル市民ホールで行われた第1回の連絡協議会において三多摩地区連絡協議会規約が次のとおり決められた。

中央大学学員会三多摩地区連絡協議会規約

（名称・事務所）

第一条 本会は、中央大学学員会三多摩地区連絡協議会と称し、事務所を会長宅におく。

（目的）

第二条 本会は、三多摩地区所在の支部・分会相互の連携・親睦を密にするとともに、未組織地区の組織化を推進し、中央大学の発展に寄与することを目的とする。

（組織）

第三条 本会は、三多摩地区所在の支部・分会をもって組織する。

（役員）

- 第四条
1. 本会に、会長1名、副会長若干名の役員をおく。
 2. 会長、副会長は、各支部長・分会長とする。
 3. 会長は、輪番制とする。

（経費）

第五条 本会の経費は、各支部・分会の分担金をもって充てる。

附 則

1. この規約は、昭和60年10月26日から施行する。

なお、この規約で会長は、各支部長の輪番制となったが、昭和61年度、昭和62年度の2期は八王子支部長関孝氏にお願いし、昭和63年度は立川支部長五十嵐栄治氏が会長に選任され、事務局も立川支部が担当されることとなった。

第2回以降の連絡協議会は次のとおり開催された。

昭和61年3月7日 19:00～ 役員会

八王子駅ビル8F第3会議室

昭和61年10月7日 18:30～ 役員会

八王子駅ビル8F第3会議室

昭和61年10月25日 18:30～ 総会

八王子駅ビル10F東天紅

昭和62年3月19日 19:00～ 役員会

八王子駅ビル10F東天紅

昭和62年11月21日 15:30～ 総会

八王子市 小杉会館

国立白門会からは村田支部長の他、井上、福谷両副支部長、丸本幹事長が参加している。
他に連絡協議会主催の観桜会、秋の親睦旅行が計画されている。

3 会員の叙勲及び表彰

(1) 叙 勲

中西 旭氏 教育功勞によって、勲三等瑞宝章（昭和51年秋）受章

この他、会計学の祖と言われるルカ・カチヨリの研究者として、ルカ・カチヨリの生まれ故郷のサン・セポルクロ市から名誉市民の称号を授与。

酒井 博氏 司法功勞によって、勲三等瑞宝章（昭和54年春）受章

井上定男氏 教育功勞によって、勲五等双光旭日章（昭和54年秋）受章

(2) 表 彰

市橋千鶴子氏 中央大学学員会において、10年間、学員会白門婦人会支部長を勤められた功勞により表彰を受けられた。（昭和59年5月）

福谷 実氏 献血功勞により国立市長表彰を受けられた。（昭和59年11月）

4 トピックス

(1) 谷 清氏（昭和26年法卒）市長に3期当選

昭和54年の春の統一地方選挙の際、当時の石塚一男革新市長に対抗して保守・中道陣営から市長候補を擁立しようとして、村田亘会長を含む三人の候補者の中から人選をすすめていたが、保守・中道四党（自民、公明、民社、新自由クラブ）の合意が整わず、候補難となり、東京消防庁で将来のトップを囑望されていた救急部長の谷清氏に白羽の矢が立ち、三顧の礼をもって市長候補に迎えられたのである。激戦であったが目出度く当選され、現在まで3期市長をつとめておられる。

(2) 井上正博氏（昭和34年商卒）市議会議員に2期当選

昭和58年の春の統一地方選挙の際、中区商店会の推せんを得て、市議会議員選挙に立候補され、見事に上位当選された。

昭和62年の春の統一地方選挙の際にも見事再当選を果たされ、現在は商工委員会委員長として活躍中である。

(3) 岡田忠臣画伯の個展開催

会員の中に、東西ヨーロッパ諸国からの招待で各国を巡り、国際的に高く評価されている岡田画伯がおられる（ル・サロン銀賞受賞一昭和54年、フランス国際展国際賞受賞一昭和58年）ことに誇りを感じた我々は、国立市民に作品を披露して頂くようお願いした。

岡田画伯は、快くお引き受けくださり、昭和58年11月1日～6日まで国立駅前大増ビルで個展を開催されたところ大変盛況であった。

(4) 顧問、会員が国立市の相談員に

市橋千鶴子顧問、石川正明会員は、弁護士として国立市から法律相談員を委嘱されている。また、村上寿夫会員も以前法律相談員であった。

丸本大氏は、総務庁長官から行政相談員に委嘱されているが、国立市の行政相談員として活躍しておられる。

(5) 中央大学創立百周年記念募金

昭和60年に、母校中央大学は創立百周年を迎えたのであるが、百周年を記念して各種記念行事、国際センター、記念会館の建設などの計画を実現するため、総額50億円の資金を集めることが必要となり、学会会各支部等に対して応分の募金要請があった。

国立白門会に対しても、昭和58年6月15日中央大学から上野、見野両氏が訪問され、国立商協ビルにおいて、「百周年記念寄付金の募集」について説明会を開催した。

国立白門会では21人が募金委員に委嘱されたが、国立白門会ニュースに募金の記事を掲載する等、協力を要請した結果、昭和61年2月末日現在、目標額300万円を超える335万円が拠出された。

5 備品一覧

- (1) 支部旗 1 棹
- (2) 天 幕 1 張（丸本大幹事長寄贈）
- (3) 小 旗 2 枚
- (4) 会場表示垂幕 1 枚
- (5) 学 員 名 簿

6 国立今昔（国立市「わたしの便利帳 '88」から）

昭和40年に7つの都市公園と2,257戸の富士見台公園住宅が完成したのを機に、昭和42年1月1日、人口52,523人をもって国立市が誕生した。

昭和62年1月1日に市制20周年を迎えて、「緑と文化とふれあいのあるまちづくり」に邁進し、今日に至っている。

江戸時代は、甲州街道を中心に民家が立ち並び、やがて村へと発展し、住民は農業、養蚕を主として街路沿いに商業、手工業を営む家も極くまれに見られた。

明治22年、谷保村、青柳村、石田村飛地の3村を合併して谷保村となったが、これが国立市の前身である。

大正末期になっても谷保村は、甲州街路沿いに数百戸の農家が点在するだけだったが、総面積の3分の1を占める北部一帯の山林が箱根土地によって開発されて整然とした街路がつくられた。

三角屋根でおなじみの国立駅は、大正15年に開設され、時を同じくして国立音楽大学が創立された。

昭和2年には一橋大学が誘致され、昭和5年に南武線が開通した。

昭和20年前後に第2次世界大戦による疎開と戦後の住宅復興によって人口はうなぎのぼりに増えたため、昭和26年4月1日、人口14,903名をもって町制が施行され、谷保村から国立町となった。

昭和25年から、婦人、学生を中心に教育環境を守るための浄化運動が起こり、国立町は昭和27年1月6日「文教都市」に指定された。こうして、「文教のまちくにたち」が誕生し、その後のまちづくりも文化都市建設の理想に向かって進められた。

因みに国立白門会が創立された昭和53年からの世帯数と人口の推移は次のとおり。

年 (4/1現在)	世帯数	人口		
		男	女	合計
昭和53年	22,803 ^{世帯}	31,867 ^人	31,589 ^人	63,456 ^人
54	22,977	31,948	31,626	63,574
55	23,074	31,817	31,430	63,247
56	23,176	31,783	31,376	63,159
57	23,434	31,907	31,464	63,371
58	23,948	32,336	31,702	64,038
59	24,101	32,362	31,752	64,114
60	24,329	32,505	31,732	64,237
61	24,593	32,821	31,817	64,638
62	24,712	32,771	31,627	64,398
63	24,846	32,635	31,548	64,183

あとがき

国立白門会創立十周年記念行事の一つとして、記念誌を刊行することとなり、国立白門会に創立当初から参加させていただいていたというえに、しから私とその光栄ある執筆者として役員会から指名されました。

村田会長、井上副会長、能味広報部長、堀田会計他の方々のご助言を得て、国立白門会ニュース、私が保存していたメモを参考としてできるだけ忠実に10年のあしどりを記すよう努力いたしました。

しかし、記録し得なかったこともあろうかと思われまのでお気づきの点をご遠慮なくご指摘ください。

次の機会にはより完全な記念誌として残したいと存じます。よろしく願いいたします。

国立白門会副会長 福 谷 実

国立白門会創立十周年記念誌 はばたき

昭和63年 6月12日発行

発行者 中央大学学員会国立支部

支部長 村 田 亘

〒186 国立市富士見台1-1-201

印刷者 株式会社 ぎょうせい

〒162 新宿区西五軒町52
